

町の課題を知り、みんなで解決策を考えよう

【公営住宅使用料】

住宅に困窮する低所得者のために、比較的安価な家賃で生活することができる公営住宅。

今回は、公営住宅の運営収支の状況等についてお知らせします。

- 自己決定・自己責任 -

地方分権時代の 問われる自治体 “3つの力”

。自治力・財政力・行政力。

■ 公営住宅管理運営収支の現状

現在町内には、115戸の公営住宅があり、そこに居住するためには、公営住宅法や町条例で定められた入居条件を守り、住宅使用料（家賃）を支払わなければなりません。

住宅使用料は、入居者の収入や住宅の立地条件、規模、建設後の経過年数などに応じて決定されます。しかし、過去3年間の決算では、住宅使用料の^{※1}滞納額が100万円を超える年もあるなど、増えているのが現状です。

また、管理運営の収支を見ると、住宅使用料収入だけでは、公営住宅の維持管理費（修繕料・各種手数料・工事費など）と建設時の起債償還分を賄えないため、^{※2}不足分は町の全体予算の中の自主財源（一般財源）から負担しています。

<収支と滞納状況>

（単位：千円）

年度	収入 公営住宅 使用料	支出		※2 差引不足額 （一般財源）	※1 滞納額	収入割合
		維持管理費	※3 起債償還費 （利子含む）			
H 27	21,049	11,379	34,725	▲ 25,055	1,359	96.9%
H 28	20,649	9,487	37,857	▲ 26,695	670	93.9%
H 29	19,904	9,578	38,669	▲ 28,343	1,204	94.3%

※3 起債償還費：公営住宅建設事業債（借金）は、25年以内で償還。地方交付税措置なし。

■ 町からのお願い

住宅使用料は、公営住宅の維持管理費として貴重な財源です。その確保ができなければ適切な維持等が困難になり、入居者の生活環境に支障をきたすことになります。

町では、特別な理由なく住宅使用料を滞納している方には、**連帯保証人**に対しても未納額の通知をするほか、納入要請を行うなど厳しい対応に努めていきます。また、連帯保証人が亡くなったときや連帯保証人を変更しようとするときは届出が必要です。

滞納のある方は、平等な行政サービスと入居者の公平な負担のため、早急な滞納解消の努力をお願いします。

第69回 社会を明るくする運動



▲内閣総理大臣メッセージが伝達

積丹町作文・標語入選作品

◆作文の部◆

〈中学生の部〉

- 金賞 『人としての心づかいや思いやり』
- 銀賞 『思いやりもバトンのように』
- 銅賞 『笑顔を増やすために』

- 美国中1年 入間川 柊空^{いりまがわしゅうくわん}
- 美国中1年 丹場 桜花^{たんばかか}
- 美国中1年 野宮 瑠香^{のみやるか}

◆標語の部◆

〈小学生の部〉

- 金賞 いじめはね 友達悲しむ 種になる
- 銀賞 「友情」で みんなと作る 心の輪
- 銅賞 えがおでね いつも「おはよう」自分から

- 日司小4年 みかみ 三上 球椿^{みかみ さん 球椿}
- 美国小6年 さと 佐藤 果夏^{さと さん 果夏}

佳作 けんかして ごめんねっていえる いいなかま

- 野塚小3年 こうろく 郷六 遥人^{こうろく さん 遥人}
- 野塚小1年 いこま 生駒 琉偉^{いこま さん 琉偉}

〈中学生の部〉

- 金賞 日々努力 あの日自分 超えてやる
- 銀賞 友達と 帰りにかわす また明日
- 銀賞 なにごとも あきらめないで レッツトライ

- 美国中1年 みかみ 三上 琳加^{みかみ さん 琳加}
- 美国中1年 さと 窪内 凱^{さと さん 凱}
- 美国中1年 のり 的場わか^{のり さん 的場わか}

7月9日、第69回「社会を明るくする運動」北後志町村訪問車両パレードが行われ、内閣総理大臣と北海道知事からのメッセージが伝達されました。
また町では、7月の強調月間に合わせ、町内小中学生から応募のあった109点の作文・標語の中から10点の入選作を決定し、7月22日、総合文化センターで松井町長より入賞者へ表彰が行われました。

《「作文」・中学生の部》金賞受賞作品

「人としての心づかいや思いやり」

美国中学校1年 入間川 柊空

社会には、障害のある人、外国人、高齢者などの様々な人がいる。その人たちにどのようなことができるのか。

例えば、目に障害を持っている人でも危なくないように点字ブロックがあり、耳に障害を持っている人には、会話が分かるように手話がある。

それなら外国の人にはどうだろう。通訳がいなかったら人はどうするだろう。私は、英語が苦手だ。でも、手や体を使って表わせば私の思いは伝わるはずだ。何回かそのような経験があり、全員が分かってくれた。だから自分に思いがあれば伝わるということが分かった。

次に高齢者だ。現在の社会では高齢者が増えている。私の町でも増えている。老人ホームが一つから二つになっている。建物が増えると高齢者が増え続けているんだと実感する。

もし町やお店で困っている人がいたら私は助けている。一度経験したことがあり、見るからに重そうな荷物を持っている人がいて声をかけて助けたことがある。その荷物は、私が持つても重くて、肩が抜け落ちたかと思っただけだ。

私には、百才のおばばと、九十代のおばあちゃん、六十、七十代のじいちゃん、ばあちゃんがいる。百才のおばばは、耳が遠くて、補聴器をつけている。私の

住んでいる町とは近くないから、たまに心配になることがある。あとの四人は私と同じ町にいるからすぐに様子を见に行ける。近くにいたりよつぱり安心する。

高齢者は、いつ、どこで、何が起きるか分からない。でも、家族のみんなは「元気に生きていくから、そんなに心配することはないよ」と優しく言ってくれた。だから今は、あまり考えこまず、悩まずに、見守っていようと思った。

このように、たくさん人の心づかいや思いやりがあることが分かる。身の周りにも、目のどきどきにくい所のもので、たくさんの人を助けているかもしれない。そう思うと、「ステキ」だなと感じる。どんな場面でも、「自分だけが助かればいいや」と思うのではなく、「他の人はどうすれば助かるだろう」と一度考えてみることも大切なことだと思ふ。

人は、みんなちがう考え、思い、心がある。それに対して相手がどう感じるか、どうとらえるかも変わってくると思ふ。いやに思ったり、うれしく思ったり、様々だ。それに自分が相手に言われてうれい言葉を使うのも良いと考えている。

私は、人と人、心と心がつながれば明るい未来が待っていると思う。そうなるためには社会にいる多くの人が、協力し、助け合うことが、大切だと思う。たくさんの方が心がければ、社会は必ず明るくなるのではないかな。